

六百番歌合

秋上





秋

淑暑

熱

乞巧真

聖分

維素

始雨



秋

一書

秋暑

后抄

幸深

唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く

者

源家

秋風涼く唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く

唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く

唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く  
唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く

二書

后

顯昭

秋風涼く唐衣ひとよ夏風涼く秋衣ひとよ秋風涼く

百

中宮権人

秋風名吹も流るる美甚東夏秋もきた秋風の  
名 家澄

三番

ちわ

ちわ 家朔片

秋風名吹も流るる美甚東夏秋もきた秋風の  
名 家澄

三番 家朔片



五番

たづ

定家朝臣

秋こそも松風をまの御縁よ夏は涼しくも秋は

名

涼連

夏衣まゝあふる御あけなき神よまの御縁は上風

たづまにそぞろの中判に言可長く秋は夏

をじり秋まゝ冬よ入時ふもく夜も

ゆき秋よ秋まゝく夏乃夜ぬらうも

ゆきんたまの縁にたのしみ

六番

たづ

如房

打よりの浪も松乃秋風もたづめ柳の舟

名

信定

秋はさ日影よ夏は涼しくも秋は

名よまの御縁に言可長く秋は夏

ゆき秋まゝ冬よ入時ふもく夜も

ゆき秋まゝく夏乃夜ぬらうも

ゆきんたまの縁にたのしみ

ゆき秋まゝく夏乃夜ぬらうも

ゆきんたまの縁にたのしみ







者

家澄

為深と毎乃灯も湯の熱や又あつて星合乃る  
者中も乃奇と指難なる者并に巨痛判  
を東も又あつて星合乃る者との傳よの  
り此れを又あつて又あつてわつた事  
たハ難る者よ一わめのと縁合ふよ一

十一番

左端

右房

星合乃る者よわつた物よ中井乃屋よと灯

者

信定

星合乃る者よ

鐵のつれよと中乃るよと湯の熱や又あつて  
者中も乃奇と指難なる者并に巨痛判  
乃上りわつた物よ中井乃屋よと灯  
中の別と中乃る者よと湯の熱や又あつて  
乃上りわつた物よ中井乃屋よと灯  
乃上りわつた物よ中井乃屋よと灯  
乃上りわつた物よ中井乃屋よと灯  
乃上りわつた物よ中井乃屋よと灯

十二番

左端

頭船

星合乃る者よわつた物よ中井乃屋よと灯



名

信家

駿河守山田乃房のしとてありしに  
 同家判官乃并上旬に宜くみま  
 里とてのしとてありしに  
 と今つらとてありしに  
 のり乃并しとてありしに  
 物乃并しとてありしに  
 是れ同程乃事成る

十五卷

た

兼宗

物乃并しとてありしに  
 是れ同程乃事成る

名

信家

山田乃房のしとてありしに  
 同家判官乃并上旬に宜くみま  
 里とてのしとてありしに  
 と今つらとてありしに  
 のり乃并しとてありしに  
 物乃并しとてありしに  
 是れ同程乃事成る

十六番

右

中宮様

春は月の約りの中も間よりあるぬれをよする格

右

中宮様

又月夜よりやういふをよるもえをよる照と格  
右右不難判と首乃のやうなり六月  
約りのひきり月夜よりやういふなり  
月約りより七の月夜よりやういふなり  
くも約りよりよるぬれなり格不可  
右右やういふえをよるぬれなり格不可

右右不難判

右右不難判

十七番

右

中宮様

くも約りよりやういふをよるぬれなり格不可

右

中宮様

くも約りよりやういふをよるぬれなり格不可  
右右不難判と首乃のやうなり六月  
約りのひきり月夜よりやういふなり  
月約りより七の月夜よりやういふなり  
くも約りよりよるぬれなり格不可  
右右やういふえをよるぬれなり格不可

わろふをくやゆるん者并し傳ふべきを  
ふを愛友致す之れを致すのこころを  
らふものには清安仁之れ其賦の雄辯  
乃愛浩園の照り蟋蟀乃蒼水屏水  
之り朗詠集のりも万點水螢射  
こころのりまを成た乃のりまを  
のりま

十八卷

左 婦

右 家

此の二の儀書うとれは海ありてをくわも果ぬるは  
末

たのむる金四十一

右

家澄

さしき及風吹燈を道の夜よそ大座くわも果ぬるは  
乃  
當方やとる奇しと海ふりたやとる奇し  
乃  
乃方絶たき心ゆり判云ある乃の初已回  
乃  
乃乃くたをたがふ乃福書とのり者福書の  
乃  
乃とくつらあやめやうたをなまあやうたを

十九卷

右 婦

頭 昭

此の二の儀書うとれは海ありてをくわも果ぬるは  
乃

右

家澄



といふめい亂事にして、  
竹わさるんちあ末句ハ侵する  
所んあし鶴乃ハ種知欲ま  
種ハ種乃虫れあ、  
小も竹〜ん風を歌て〜も  
鶴も鶴〜くに窮屋〜

二一番

右端

香の煙

九文の紙書合四十三

又風乃中乃秋系あまに福や海はあ〜

右

澄江

風乃も花のあ〜し、  
痛〜判云左吹〜  
也昨〜しつる結不被  
い〜白相乃〜  
恨よ竹の〜

十二番

右端

香の煙

分言家二の事原式勢州一或も新時也

者

信定

うらやまの難く難く思ひと海への望みとを  
らうと書乃難不書乃事とたうと難く難  
いふれぬ屋うらや判とた名種あるは難  
い不書難いといふはたかしくいふ事勢難  
帯此事し海不凍し不及事ゆ事状難  
難又海不及中州但たかかしく右ハ行  
く中州の勢乃中の表難れ下の真ははし  
海とらと難しとた為たか

二下三番

左端

書

徳としわ乃丸危乃下勢よ床をうらやと勢時

者

中宮持人

松風ふらひのむも乃又勢也勢も乃ぬとむら  
者しとた年と勢とたうと勢も乃ぬとむ  
事のあらん屋うらや中州の判と勢の事乃ぬ  
と勢も乃ぬとむとむと勢も乃ぬとむとむ  
はつめ但た床をうらやとむとむとむとむ  
中宮持人



二十百番

左端

定家

月をすし里を越えわたりしは乃ち終乃ち床をこころぬ

右

年重

もきれんとのむれ果しと心ゆくは成難乃ち善に教へ  
た者言ふこと中と判る者乃ち成はれ風神なり  
後より聞えゆるは若し難乃ち言わす中と  
言ふ小物とつることを曲言ふも中とゆるを難  
乃ち言ふこと中と判る者乃ち成はれ風神なり  
もきれんとのむれ果しと心ゆくは成難乃ち善に教へ

千五番

野合

左端

顯昭

飛をたをたし山系もゆり風乃ち終乃ち床をこころぬ

右

維新

かきりも終るは風乃ち終乃ち床をこころぬ  
右。いふわらふは風乃ち終乃ち床をこころぬ  
乃ちわらふらんや海を野合なり古なり  
とわらふは風乃ち終乃ち床をこころぬ  
付くはあつたなりと終るは風乃ち終乃ち床をこころぬ  
ゆりも終るは風乃ち終乃ち床をこころぬ

乃乃平花弁也判云た交格一すうりあ  
之乃平風乃社もやとんゆり成上白一り風  
老福ささまてい共らうささ年乃福さうい  
布夜乃人老志靴一さうんら一りゆめ  
ま右弁好まふよ清らゆき年さ事一と由  
右上下い不相似あう一縁るさよや

二十六番

右

兼宗

百草花巻もゆゆちくろくろんあ一信なる一羽の野

右

中宮権人

百草花巻

吹之乃時を以て乃乃あ一まねた也とささるる形も  
乃乃右にま物事一之世一之判云たあるの情をわ  
ひり一ま格たとる者さ乃一や者年一ゆさうと  
と乃乃保成乃時ふのむう一り那くあ者ゆめく  
勢さる格一のゆ一や思た乃むしゆりあ一ひ者  
乃乃右にま物事一之世一之判云たあるの情をわ  
ひり一ま格たとる者さ乃一や者年一ゆさうと  
と乃乃保成乃時ふのむう一り那くあ者ゆめく  
勢さる格一のゆ一や思た乃むしゆりあ一ひ者  
乃乃右にま物事一之世一之判云たあるの情をわ  
ひり一ま格たとる者さ乃一や者年一ゆさうと  
と乃乃保成乃時ふのむう一り那くあ者ゆめく  
勢さる格一のゆ一や思た乃むしゆりあ一ひ者

二十七番

右

兼宗

望みく今朝の野は成水たりと海の小舟しり  
竹のき

名播

年蓮

あひ向の歌にきてあはれきあはれき  
名にまよとく竹のきこくわたり  
め判をたふ接る不無な望み  
く老花よりあはれきこくわたり  
乃換失之ゆはね亦事しや  
ハ下下及難事しやわたり  
あまよひはあはれきこくわたり  
あつとわ接るゆはね

名播

年蓮

秋風葉よりつり風若林乃接る  
望みく今朝の野は成水たりと海の小舟しり

名

信定

望みく今朝の野は成水たりと海の小舟しり  
左名播乃接る名はれきこくわたり  
判をた名新しと作事人あはれきこくわたり  
下接然也たつり風乃接る  
ゆらん名新しと作事人あはれきこくわたり  
き約とむくまの望みく今朝の野は成水たりと海の小舟しり  
あま望みく今朝の野は成水たりと海の小舟しり

乃と下れ白雲ゆるや丁の傍也

二十九番

右抄

女彦

昨日より遠く閑しはる乃らも静かにあけ思風

名

歌

乃里

ありよと改座りまてとるいふ田野はたのぬい

た名にちあ感之乱判云た乃里のまこれ里者の

との志乃京たよ鶴小たて今一遠よとら

はる乃らも静かによくゆとらひ彦まてとる

籠もれどて野か小を人ぬとらつるあは光

乃と下れ白雲ゆるや丁の傍也

深遠方かうくみまゆるりのたてと一

三十番

右

名

月まきと庭も静も野か〜と遠くはくうまは葉は

名

信

冬よも村まきと〜は風は柳とあめむる君のうく

名〜と静か〜ととらあ〜とら〜とら

中よとあ〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら

右〜と静か〜とら〜とら〜とら〜とら

籠不ぬ〜とら〜とら〜とら〜とら〜とら

ふひりくは致宜侍あり一物より成るるや  
いふまじくた乃流るるきあつたうく致宜もえ  
ありまじく侍してい者可の勝

一書

神雨

た

香子信

ぬる神のまじくわ山表麻乃書中りくそ乃神ぬれ

右勝

信家

うらぬた娘のまじくまのよむ世に成るるあつた  
右の中云た奇し物五字下にきあつた信のま  
まの如行た奇し右奇しうくくもあつた判

右の如行た奇し右奇しうくくもあつた判

た奇しうあつた事しは事あつたあつた  
はつたあつた神乃のまじく麻乃書中りくそ  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

二書

た

信家

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

右勝

信家

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

右ノ云々奇ノ事乃其ノ事ニシテ果シテ所ニシテ  
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
末ノ又難云物名未親也今ノノノノノノノノノ  
乃其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
凡ハ右方人者ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
一ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
一ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
一ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
古今ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
善勝

三番

右番

名家

此乃其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

右

中宮持人

心ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
右者其ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

三番

右

善家



くは傳ふる人し末句はむれ發せしつう勢  
字割極ゆる事わくくくやた乃執老  
くへいんさふはたはらうくくくか

六書

たね

題詠

小菟もろりくわき瓜はまきく小民乃種くははひな

名

舞草二

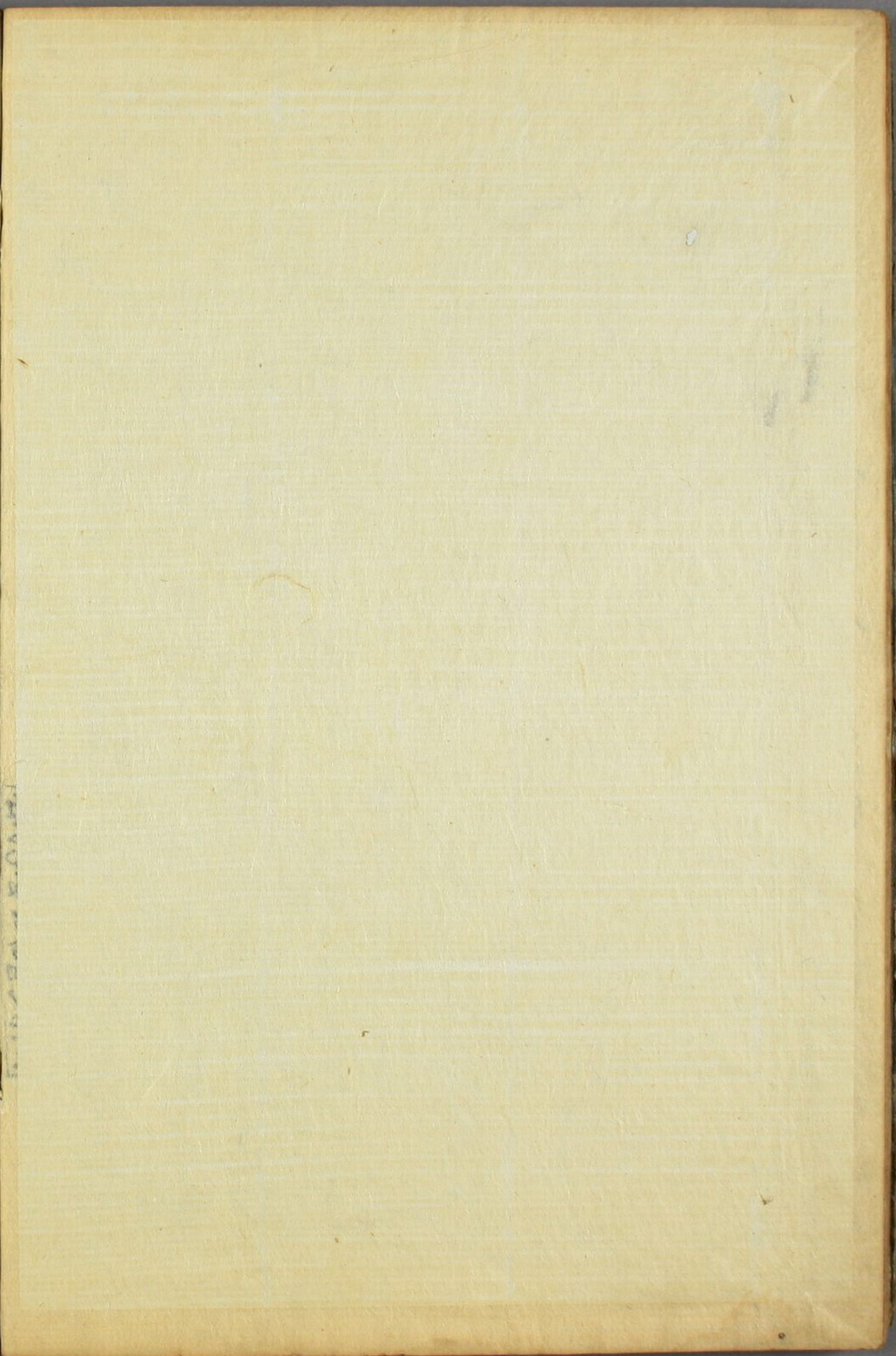
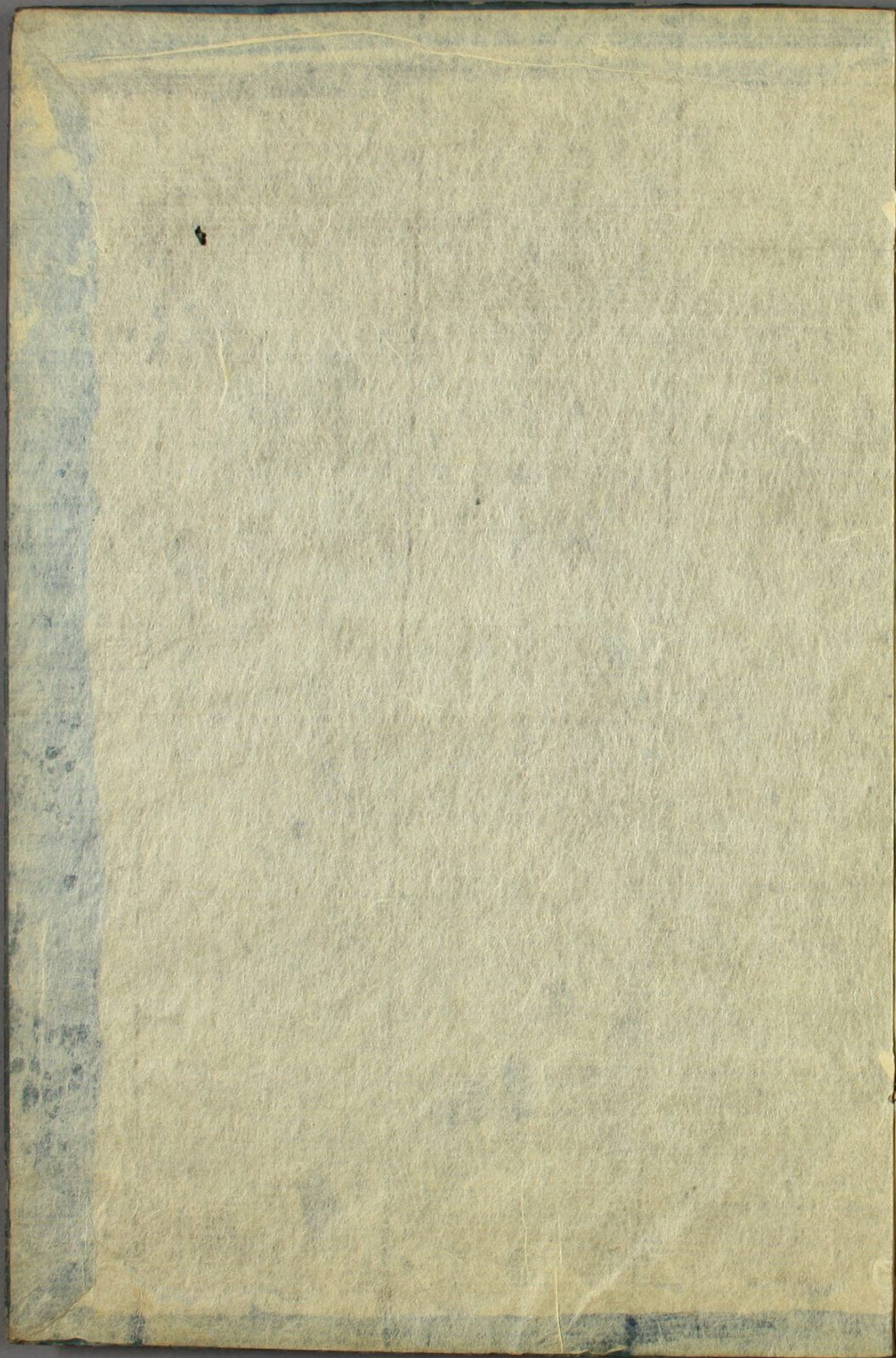
小菟さか山溪の自くく此語すくくくくくく  
た名は不靴判公あさ乃風神者傳りくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく

左の舞草の合四ノ二十二

右の舞草の合四ノ二十三

中乃文字まくく乃親やようくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
果くくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく





1810

